

第5期総合計画：重点施策推進管理評価調書【重点項目3】

	評価年度	平成27年度
重点項目	3 誰もが安全で快適に過ごせるまちづくり	
	誰もが安全に暮らせるまちづくりを進めるとともに、快適な生活を確保するため生活基盤の整備を進めます。	

	分野	施策	施策の内容	27年度評価	26年度評価	担当課	計画書掲載頁
重点施策	消防、防災	防災対策の充実	自主的な防災活動を全町に普及させるため、自主防災組織などの育成に努めるとともに、避難行動要支援者の把握と情報提供をはかります。	4	4	情報・防災課 福祉課 広報広聴課 建築住宅課	47
	交通安全、防犯	交通事故を防ぐ環境づくり	歩行者の安全確保をはかるため、歩道の設置、段差の解消、街路灯や防犯灯、通学路の整備などを進めます。	4.33	4.33	環境生活課 都市計画課 土木課	49
	道路	町道の整備促進、維持補修	交通ニーズに応じた整備手法を検討し、農村部の道路整備を進めます。 道路状況に応じて、市街地における住宅地内道路の再整備などを進めます。	3.67	4	土地改良課 都市計画課 土木課	51
	公園、緑地	公園、緑地の整備、維持管理	「公園施設長寿命化計画」に基づき、既存公園施設の延命化と再整備を計画的に進めます。	5	5	都市計画課 土木課	54
	住宅、宅地	公営住宅の整備、維持管理	「住宅マスタープラン」「公営住宅長寿命化計画」に基づき、公営住宅の適正な整備と維持管理に努めます。	5	4	建築住宅課	57
	水道	水道普及率の向上	農村部の水の確保に努めます。	5	5	上下水道課	59
	下水道、排水処理	個別排水処理施設の整備	下水道計画区域外の個別排水処理施設(合併浄化槽)の整備を進めます。	5	5	上下水道課	60
	地域福祉	地域福祉を推進する体制・環境づくり	年齢や障がいにかかわらず生活しやすいまちにするため、ユニバーサルデザインの普及をはかります。	4	4	福祉課	81
重点施策の推進状況評価の平均				4.50	4.42		



評価区分	A 順調に進んでいる (4.50~5.00) B 概ね順調に進んでいる (4.00~4.49) C 推進が必要 (3.00~3.99) D 更なる推進が必要 (0~2.99)	A
------	--	----------

推進状況	重点項目3は、前年度から推進状況が進展した。町道の整備促進は、国の予算が厳しいこともあり評価を下げたが、公営住宅では民間賃貸住宅の活用が進んでいることから、評価が進展した。自主防災組織の結成や災害時要援護者の把握は着実に進められており、引き続き町民の防災に対する意識の高揚を図っていく必要がある。防犯対策のための街路灯、防犯灯の整備については、必要箇所への設置や計画的な更新に努めている。その他の施策については順調又は概ね順調に進んでおり、快適な生活を確保するため生活基盤の整備に努めている。
------	--

評価結果	防災教育に関して、過去に発生した災害の体験を高齢者に語ってもらい、次の世代につなげていくような、知識や経験を伝承していく取組が必要である。 防災対策に関して、避難所の運営に女性が入り、意思決定ができるようなシステムを含め、自主防災組織や消防団の女性の加入率を上げていく取組が必要である。 子育て世帯向け賃貸住宅家賃補助事業に関して、小学校の周りに人を集めるため、空き家対策と連携して、児童数が減少している小学校付近の戸建て住宅を事業の対象としてはどうか。
------	---

重点施策	3 誰もが安全で快適に過ごせるまちづくり
------	----------------------

分野	消防、防災
----	-------

施策	防災対策の充実
----	---------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	「自然災害などに対する防災体制」の満足度	まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	パーセント	77.0(H20)	81.7(H26)	82.1						81.7
指標2	自主防災組織の組織率	総世帯数に対する自主防災組織結成行政区の世帯数の割合	パーセント	37.9(H21)	61.1(H26)	63.5						70.0
指標3	「潤いと思いやりの地域づくり事業」の申請件数	町内会組織などを中心とする「潤いと思いやりの地域づくり事業」における地域防災組織活動事業の申請件数	件	30(H22)	49(H26)	44						55
指標4	住宅の耐震化率	住宅の総戸数に対する耐震性のある住宅の割合	パーセント	75.4(H20)	78.9(H25)	80.7						90.0
指標5	特定建築物の耐震化率	多数の人が利用する建築物(特定建築物)総数に対する耐震性のある特定建築物の割合	パーセント	72.2(H20)	81.4(H25)	83.5						90.0
指標6	防災協定の締結数	災害時における協力に関する協定の締結件数	件	25(H20)	40(H26)	40						45

●事務事業の実績

・事務事業1			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	出前防災講座	成果数値	回	18	20							情報・防災課
事業概要	自主防災組織、町内会等を対象に防災知識等を出前講座で周知する。	事業費実績	千円	—	—							
成果名	開催回数	評価		貢献度 2	2							
				達成度 2	2							
・事務事業2			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	災害物資整備	成果数値	式	一式	一式							【備蓄品の内容】 アルファ米、飲料水、粉ミルク、毛布、マット、紙おむつ、生理用品等 情報・防災課
事業概要	災害時に必要な物資として備蓄する。	事業費実績	千円	9,803	9,756							
成果名	災害用備蓄品	評価		貢献度 2	2							
				達成度 3	3							
・事務事業3			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	避難行動要支援者の把握と情報提供	成果数値	人	3,783	3,887							福祉課
事業概要	避難行動要支援者を把握するとともに関係機関のほか民生委員や町内会等に情報を提供する	事業費実績	千円	—	—							
成果名	要支援者数	評価		貢献度 3	3							
				達成度 3	3							
・事務事業4			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	潤いと思いやりの地域づくり事業(地域防災組織活動事業)	成果数値	件	49	44							広報広聴課
事業概要	町内会組織などが実施する地域防災組織活動に対して補助を行う。	事業費実績	千円	1,260	1,031							
成果名	事業実施件数	評価		貢献度 3	3							
				達成度 3	3							
・事務事業5			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	耐震改修工事	成果数値	件	4	4							【補助制度の概要】 木造戸建住宅:工事費×10%(上限30万円) 大規模建築物:工事費×23% 建築住宅課
事業概要	建築物の耐震化を促進するため、耐震改修工事に係る費用の一部を補助する。	事業費実績	千円	300	—							
成果名	工事実施件数(累計)	評価		貢献度 3	3							
				達成度 1	1							

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

■第5期総合計画：推進管理評価調書【施策（個表）】

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度 (中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・災害物資は計画的に整備しており、自主防災組織率が増加傾向にあることから、5評価とした。(情報・防災課) ・避難行動要支援者の把握を計画どおりに進めていることから、4評価とした。前年度と比較して、20人増加している。(福祉課) ・年々自主防災組織の組織化が進んでいるが、前年度と比較して件数減となったことから、4評価とした。(広報広聴課) ・耐震改修補助は、町民に対して年2回広報紙で周知している。全国各地で大きな地震あった際には問い合わせがあるが、耐震改修は町の補助があっても相当な自己資金が必要となることから、建替時に実施することが多く、件数があまり伸びていないため、3評価とした。(建築住宅課)
27年度	5	同上	4	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度と同様の状況であることから、5評価とした。(情報・防災課) ・避難行動要支援者登録に係る3年に1度の一斉登録・更新を行ったことから、4評価とした。前年度と比較して、104人増加した。(福祉課) ・前年度と同様の状況であることから、4評価とした。(広報広聴課) ・前年度と同様の状況であることから、3評価とした。(建築住宅課)
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5：重点及び早急に推進することが必要な施策 4：更なる推進が必要な施策 3：現状で推進する施策 2：現状においては推進に時間を要する施策 1：制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5：成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4：一定程度進んでいる(50～79%) (標準) 3：あまり進んでいない、遅れがある(20～49%) 2：着手した程度(20%未満) 1：未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	町民の満足度については、27年度アンケートの結果では82.1パーセントとなり、最終年度目標値の81.7パーセントを上回った。自主防砂組織の組織率は、着実に増加しているが、町内会等の潤いと思いやりの地域づくり事業による地域防災活動事業は、減少傾向にある。住宅及び特定建築物の耐震化率は増加傾向にあるが、防災協定の締結数は、前年度と同数であった。
施策の課題	避難行動要支援者については登録件数が増えているものの、プライバシーの観点から登録を躊躇する人もおり、より趣旨の理解を深め、避難支援が必要な人に登録してもらうことが、地域防災活動事業や耐震改修はあまり伸びていないことが課題となっている。
総合評価 (施策の方向性)	町が整備する災害備蓄品、保管庫等の整備は計画的に進められており、自主防災組織は27年度末で72組織となっている。避難行動要支援者は、民生委員にご協力をいただきながらその把握に努めている。町内会等が実施する地域防災活動や住宅の耐震化は足踏み状態となっており、制度の更なる周知に努める必要がある。

重点施策	3 誰もが安全で快適に過ごせるまちづくり
------	----------------------

分野	交通安全、防犯
----	---------

施策	交通事故を防ぐ環境づくり
----	--------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	交通事故死傷者数	交通事故による年間の死傷者数	人	178(H21)	87(H26)	84						160

●事務事業の実績

・事務事業1			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	街路灯・防犯灯の設置及び維持管理	成果数値	灯	4,264	4,275						【26年度新設灯数】街路灯 3、防犯灯 1 【27年度新設灯数】街路灯 0、防犯灯 14	環境生活課
事業概要	町が管理する街路灯・防犯灯の設置及び維持管理	事業費実績	千円	38,550	40,912							
成果名	街路灯、防犯灯の設置数	評価	貢献度 達成度	3 3	3 3							

・事務事業2			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	街路事業等による歩道設置	成果数値	メートル	361	52							都市計画課
事業概要	雄飛が丘通の整備による歩道の設置	事業費実績	千円	13,148	1,560							
成果名	設置延長	評価	貢献度 達成度	3 3	3 3							

・事務事業3			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	道路事業による交通安全対策事業	成果数値	メートル・件	293(メートル)	2(件)						【26年度実施事業】宝来東4号、音更然別1号歩道整備 【27年度実施事業】音更西1線と下音更然別北7線交差点整備(緑陽台小学校南側)	土木課
事業概要	道路整備による歩道設置や交差点の整備	事業費実績	千円	3,108	1,404							
成果名	事業実施状況	評価	貢献度 達成度	3 2	3 3							

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4.33	・街路灯、防犯灯は省電力化改修を完了し、通常の設置及び維持管理を行っているが、信号機など交通安全施設の設置については、公安委員会による採択が少ないことから4評価とした。(環境生活課) ・昨年度に引き続き、雄飛が丘通52m整備を行い、累計791mとなったことから、5評価とした。(都市計画課) ・宝来東4号道路にL=102.20m、音更然別1号道路にL=191.12m、合計293.32mの歩道を整備したことから、4評価とした。(土木課)
27年度	5	同上	4.33	・前年度と同様の状況であるため、4評価とした。(環境生活課) ・平成27年度までに歩道を937m整備する計画のうち、雄飛が丘通361m整備を行ったことから、5評価とした。(都市計画課) ・信号機設置に伴い、緑陽台小学校東南交差点(音更西1線・下音更然別北7線)を整備したことから、4評価とした。(土木課)
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	交通事故死傷者数は84人となり、前年を下回った。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、道路整備は国の補助事業で実施しており、予算に左右される面がある。また、交通安全施設は設置要望に対して採択が厳しい状況にある。
総合評価(施策の方向性)	信号機などの交通安全施設の設置は、公安委員会による採択件数は少ない状況にあるが、継続して要望を続けていく必要がある。町が実施する交通安全対策事業、街路灯などの整備は、予算に左右される面はあるが、計画的に実施していく必要がある。

■第5期総合計画:推進管理評価調査【施策(個表)】

重点施策	3 誰もが安全で快適に過ごせるまちづくり
------	----------------------

分野	道路
----	----

施策	町道の整備促進、維持補修
----	--------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	都市計画道路の整備率	都市計画道路(町道)における計画延長に対する整備率	パーセント	76.8(H21)	78.2(H26)	78.4						82.4
指標2	住宅地内道路の再整備率	市街部における道路再整備事業の実施延長と実施率	パーセント	38.0(H21)	51.6(H26)	53.8						68.2
指標3	「道路の整備・管理」の満足度	まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	パーセント	70.3(H20)	68.6(H26)	64.9						75.0

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	農道整備事業	メートル	2,792	2,362						【26年度】東和下土幌基線1,910m 上然別西7線337m 下土幌東6号545m 【27年度】東和下土幌基線1,700m 上然別西7線662m 万年西2線測量調査	土地改良課
事業概要	土地改良事業による農道整備	千円	293,090	131,684							
成果名	整備延長	貢献度	3	3							
		達成度	2	2							

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	街路整備事業	メートル	361	52							都市計画課
事業概要	雄飛が丘通の整備	千円	105,223	14,257							
成果名	整備延長	貢献度	3	3							
		達成度	3	1							

・事務事業3		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	住宅地内道路整備事業	メートル	1,667	1,616						【26年度】23路線 【27年度】20路線	土木課
事業概要	住宅地内道路の再整備	千円	171,126	176,794							
成果名	設置延長	貢献度	3	3							
		達成度	2	2							

・事務事業4		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	橋梁長寿命化修繕事業(工事等)	橋	4	5						【26年度】十勝中央大橋(温泉)、大念橋(東豊田)、東7線橋(東豊田)、育成橋(牧場) 【27年度】十勝中央大橋(温泉)、音幌橋(音幌)、南大牧橋(上牧)、陽明橋(北上)、北上沢大橋(北上)	土木課
事業概要	橋梁の長寿命化を目的とした修繕工事	千円	56,539	19,731							
成果名	整備した橋梁数	貢献度	2	2							
		達成度	3	3							

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4	・道営事業2地区、単独事業1地区を実施したが、遅れがあることから3評価とした。(土地改良課) ・雄飛が丘通を361m整備したことから、5評価とした。(都市計画課) ・住宅地内道路は1,667mの整備を完了し、総整備延長は39,480mになったことから、4評価とした。(土木課)
27年度	5	同上	3.67	・道営事業2地区を継続実施し、新規地区に着手したが、前年度と同様の状況であることから、3評価とした。(土地改良課) ・前年度と同様に雄飛が丘通の整備を行ったが、国の予算が見込みを下回り、52メートルの整備にとどまったため、4評価とした。(都市計画課) ・住宅地内道路は1,616mの整備を完了し、総整備延長は41,096mになったことから、4評価とした。(土木課)
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	都市計画道路、住宅地内道路の整備率は、予算に左右される面が大きいですが、着実に増加している。一方、整備がなかなか進まない状況を反映し、町民の満足度は低下傾向にある。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、道路整備は国の補助事業で実施しており、予算に左右される面が大きく、財源の確保が課題となっている。
総合評価(施策の方向性)	町道の整備は、農村部の農道整備、市街地の補助事業による幹線道路整備や町単独予算での住宅地内道路の再整備等を実施しているが、財源確保が大きな課題となっている。引き続き制度を効率的に活用し、計画的な道路整備に努める必要がある。

重点施策	3 誰もが安全で快適に過ごせるまちづくり
------	----------------------

分野	公園、緑地
----	-------

施策	公園、緑地の整備、維持管理
----	---------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	「公園や緑地の整備・管理」の満足度	まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	パーセント	84.4(H20)	78.5(H26)	81.6						87.0
指標2	公園施設長寿命化対策事業費実施率	「公園施設長寿命化計画(H24～33年度)」における事業費割合	パーセント	—	36.8(H26)	42.4						87.8

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	都市公園の整備	成果数値	箇所	87	88					IC工業団地公園 0.98ヘクタール	都市計画課
事業概要	IC工業団地公園の整備	事業費実績	千円	41,180	6,372						
成果名	都市公園箇所数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	公園再整備事業	成果数値	箇所	8	25					【27年度実施事業】 公園遊戯施設改築更新2公園、水洗トイレ設置 2公園、園名板更新、遊戯施設撤去工事等	土木課
事業概要	長寿命化を目的とした公園の再整備	事業費実績	千円	44,325	29,081						
成果名	整備箇所数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
 達成度 3: 順調に進んでいる(80～100%) 2: 一定程度進んでいる(50～79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	5	・二か年計画によりIC工業団地公園を0.98ha整備したことから、5評価とした。(都市計画課) ・都市公園(3公園)遊戯施設の改築更新、トイレ(2公園)水洗化、園路補修等の再整備事業を長寿命化計画に基づき実施したことから、5評価とした。(土木課)
27年度	5	同上	5	・昨年に引き続き、IC工業団地公園を整備したことから、5評価とした。(都市計画課) ・都市公園(2公園)遊戯施設の改築更新、トイレ(2公園)水洗化、既存老朽化した遊戯施設撤去等の再整備事業を長寿命化計画に基づき実施したことから、5評価とした。(土木課)
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80～100%) 4: 一定程度進んでいる(50～79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20～49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の町民の満足度は、27年度には改善された。公園施設長寿命化対策事業費実施率老朽化の割合は、着実に増加している。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、公園維持管理の質の向上と各施設の延命化を進めるため、公園に関する情報収集や維持管理への参加等、町民の理解を得ながら維持管理に取り組まなければならない。
総合評価(施策の方向性)	公園の整備、管理とも計画的に進められており、施策の推進が図られている。ニーズの把握や維持管理、整備計画の立案など、町民の参加を得ながら進めていく必要がある。

■第5期総合計画:推進管理評価調査【施策(個表)】

重点施策	3 誰もが安全で快適に過ごせるまちづくり
------	----------------------

分野	住宅、宅地
----	-------

施策	公営住宅の整備、維持管理
----	--------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	老朽化した公営住宅などの割合	耐用年限の2分の1を経過し老朽化した公営住宅等の割合	パーセント	48.5(H21)	45.8(H26)	45.3						40
指標2	子育て世帯向け民間賃貸住宅戸数	子育て世帯を支援するための民間賃貸住宅の活用戸数(累計)	戸	-	6(H26)	15						50

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	梢団地建替事業	成果数値	戸	16	0					【26年度】木造・4棟16戸整備 【27年度】RC造・1棟12戸着手、28年度完成予定 ※25年度に完成した8戸を合わせて整備戸数は全部で36戸	建築住宅課
事業概要	老朽化した梢団地の公営住宅36戸を計画的に建て替える	事業費実績	千円	304,542	118,226						
成果名	建替戸数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	公営住宅修繕	成果数値	件	354	391					【26年度】退去修繕 38件 一般修繕 295件 駐車場・道路修繕 16件 施設修繕 5件 【27年度】退去修繕 40件 一般修繕 339件 駐車場・道路修繕 12件 施設修繕 0件	建築住宅課
事業概要	各公営住宅の修繕	事業費実績	千円	27,057	29,829						
成果名	修繕件数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

・事務事業3		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	民間賃貸住宅家賃補助事業	成果数値	戸	6	15					26年度決定6戸、27年度9戸	建築住宅課
事業概要	公営住宅の補完として、子育て世帯を対象に民間住宅の家賃を補助する	事業費実績	千円	408	1,967						
成果名	事業実施戸数(累計)	評価	貢献度	3	3						
			達成度	2	3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4	梢団地建替事業として、木造平屋建て4棟16戸の建設及び外構整備等を実施し、指標1に係る基準年度比マイナス値を達成。しかし、指標2の実績が6戸に留まったことから、4評価とした。
27年度	5	同上	5	梢団地建替事業として、RC造2階建て1棟12戸の建設に着手したほか、民間賃貸住宅家賃補助においても、新規決定件数は9件となり、指標1・2ともに順調な進捗状況であることから、5評価とした。
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	老朽化の割合は、確実に減少傾向にあるとともに、子育て世帯向け賃貸住宅の活戸数も増加している。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、今後も町民ニーズを把握し、柔軟かつ的確な対応を行っていく。
総合評価(施策の方向性)	27年度に公営住宅等長寿命化計画の見直しを行い、今後5か年の建替事業の方向性を決定した。また、民間賃貸住宅家賃補助については、26年度に要綱を一部改正し制度を拡充したことが新規決定件数増に繋がった。町民の生活環境の向上のため、今後も計画に基づいた適正な整備、管理に努めていく必要がある。

重点施策	3 誰もが安全で快適に過ごせるまちづくり
------	----------------------

分野	水道
----	----

施策	水道普及率の向上
----	----------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	水道の普及率	全町の水道普及率	パーセント	86.2(H21)	90.0(H26)	89.7						94.9

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	西部簡易水道事業	成果数値	メートル	4,393	4,801					【26年度】西部北地区 4,085m、中音更地区 308m 【27年度】西部北地区 3,622m、更生地区 1,179m	上下水道課
事業概要	西部北・中音更・更生地区の水道整備事業	事業費実績	千円	222,961	205,465						
成果名	整備延長	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	東部簡易水道事業	成果数値	メートル	3,914	4,226					【26年度】音更東部地区 3,914m 【27年度】音更東部地区 4,226m	上下水道課
事業概要	音更東部地区の水道整備事業	事業費実績	千円	205,948	121,306						
成果名	整備延長	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

・事務事業3		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	第3次拡張事業	成果数値	メートル	1,376	460					【26年度】住吉 328.8m、九線大和 315.4m 等 【27年度】木野公園下町 233.9m、大通6丁目 158.4m 等	上下水道課
事業概要	市街地開発や宅地開発に伴う水需要の増加に対応するために実施する給水区域の拡張事業	事業費実績	千円	107,997	21,061						
成果名	整備延長	評価	貢献度	3	3						
			達成度	2	3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	5	国、北海道などの他官庁の関連事業の遅れに伴う事業の遅延以外は、順調に推移しているため、5評価とした。
27年度	5	同上	5	前年度と同様の状況であることから、5評価とした。
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の水道普及率は、整備の進捗に伴い増加傾向にある。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、将来的な給水人口の推移に注視しながら、効率的かつ経済的な施設整備が必要となる。
総合評価(施策の方向性)	水道3次拡張計画及び簡易水道認可計画に基づいて施設整備を進め、施策の推進が図られている。市街地、農村部に安全・安心な水を安定供給し、衛生的な生活環境を構築するため、区域の拡大に努める必要がある。

■第5期総合計画：推進管理評価調査【施策（個表）】

重点施策	3 誰もが安全で快適に過ごせるまちづくり
------	----------------------

分野	下水道、排水処理
----	----------

施策	個別排水処理施設の整備
----	-------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	個別排水処理施設整備個数	合併処理浄化槽の設置数	基	498(H21)	600(H26)	617						660

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	個別排水施設建設事業	成果数値	基	25	17					【26年度】 音更東 7基、音更西 18基 【27年度】 音更東 9基、音更西 8基	上下水道課
事業概要	農村部等の下水道区域外の住居等に、合併処理浄化槽を設置整備する。	事業費実績	千円	57,527	40,653						
成果名	年度別整備数	評価	貢献度 達成度	3 3	3 3						

評価基準
 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
 達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	5	19基/年の計画に対し、25基の整備を実施したことから、5評価とした。
27年度	5	同上	5	10基/年の計画に対し、17基の整備を実施したことから、5評価とした。
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の個別排水処理施設整備個数は、27年度末で617基となり、最終年度目標値の達成に向けて計画的に整備を進めている。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、現在の事業計画期間が31年度までとなり、今後も一定の要望数があると推測されることから、事業継続の検討が必要になる。
総合評価(施策の方向性)	農村部等の生活環境の向上を目的として、12年度から開始した個別排水事業により、農村部(下水道区域外)の浄化槽普及率は46パーセントとなっている。生活環境の向上とともに、汚水の衛生処理の観点からも重要であり、引き続き整備を進めていく必要がある

重点施策	3 誰もが安全で快適に過ごせるまちづくり
------	----------------------

分野	地域福祉
----	------

施策	地域福祉を推進する体制・環境づくり
----	-------------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	「町民ボランティア活動の育成・支援」の満足度	まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	パーセント	81.0(H20)	82.2(H26)	82.4						84.0
指標2	福祉ボランティア登録数	ボランティアセンター(社会福祉協議会内)に登録するボランティア数	人	43(H21)	67(H26)	65						80
指標3	福祉ボランティア団体登録数	ボランティアセンター(社会福祉協議会内)に登録するボランティア団体数	団体	32(H21)	27(H26)	32						50

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	社会福祉協議会補助(ボランティア)	成果数値	件	94	97					【26年度】 個人ボランティア登録数 67人、団体ボランティア登録数 27件 【27年度】 個人ボランティア登録数 65人、団体ボランティア登録数 32件	福祉課
事業概要	ボランティア事業に係る社会福祉協議会への補助	事業費実績	千円	2,345	2,589						
成果名	ボランティア登録数(個人・団体)	評価	貢献度	3	3						
			達成度	2	2						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	ボランティア派遣	成果数値	人	474	452					【26年度】 ボランティア派遣調整数 91件 【27年度】 ボランティア派遣調整数 25件	福祉課
事業概要	社会福祉協議会によるボランティア派遣事業	事業費実績	千円	上記に含む	上記に含む						
成果名	ボランティア派遣延べ人数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	2	2						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4	社会福祉協議会をはじめとする各種福祉団体の支援やボランティアセンターと連携したボランティア団体の育成などを進めるとともに、公営住宅や道路の整備等に含ませてユニバーサルデザインを導入して体制や環境整備に取り組んでいることから、4評価とした。
27年度	5	同上	4	前年度と同様の状況であることから、4評価とした。
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の「町民ボランティア活動の育成・支援」の満足度は、前年度と比較して0.2パーセントの増、社会福祉協議会に登録しているボランティアは、人数的には2名減となっているが、団体数としては8団体増加している。
施策の課題	施策に大きな課題等はないが、ボランティア人材の確保が課題となっている。
総合評価(施策の方向性)	地域福祉を推進するためには、担い手である民生委員児童委員やボランティアの育成が不可欠であり、社会福祉協議会と連携しながらボランティアの確保に努める必要がある。また、公共施設のユニバーサル化は施設の改築や改修等に合わせて実施しているが、全ての町民が安心して暮らせるよう、利便性の優れた施設整備を進める必要がある。